

## = 議場スピーチ会議録 =

1. 日 時 令和7年12月6日（土） 13時30分～14時25分

2. 会 場 駒ヶ根市役所 議場

3. 出席者 【議会広報モニター】発表者4名、傍聴者3名

【駒ヶ根市議会】議 員：宮下稔、竹上陽子、池田幸代、小林敏夫、小原晃一、  
押田慶一、藤井邦彦、竹村誉、福澤美香、今堀雷三  
竹村知子、中山万宝、中島和彦（副議長）、氣賀澤葉子（議長）  
事務局：下平、池上、伊藤

### 4. 次 第

- （1）開 会
- （2）議長あいさつ
- （3）発表方法等説明
- （4）議場スピーチ（発表順：①宮入 ②唐澤 ③柳澤 ④井上）
- （5）お礼の言葉
- （6）閉 会（終了後、意見交換）

### 5. 発表テーマ

発表者	テーマ
宮入さん	駒ヶ根市都市計画について
唐澤さん	子どもの声が届くまちづくり 子どもの声を聴くことができる社会へ
柳澤さん	若年障がい者の“居場所がない”という構造的課題について
井上さん	駒ヶ根市の未来を支える“自給力”と“暮らしの足”の再設計

### 6. 会議録

**中山万宝議員** ご起立をお願いします（一同起立）。礼（一同礼）。ご着席ください（一同着席）。皆さんこんにちは。本日、進行を務めます広報広聴委員会の副委員長を務めております中山万宝です。よろしくお願いします。ただいまより議会広報モニター議場スピーチを開催いたします。最初に駒ヶ根市議会議長の氣賀澤よりご挨拶申し上げます。

**氣賀澤葉子議長** 改めまして皆様こんにちは。駒ヶ根市議会議長の氣賀澤葉子でございます。本日は、議会広報モニター議場スピーチにお越しいただきまして誠にありがとうございます。発表者4名、傍聴

者3名の皆様7名をお迎えして開催できますことを大変嬉しく思い御礼申し上げます。日頃より、議会広報モニターの皆様には、議会だよりが発行されます度毎にアンケートに答えいただくなど本当にご尽力いただいております。その中で、すぐに改善できるものに関しましては次号に活かしていくなど、議会だよりが充実していく手応えに議員一同感謝いたしております。この議会広報モニター議場スピーチは、駒ヶ根市議会として初めての試みであります。そこで、少し目的などを話させていただきます。今年――令和7年3月でございますが、市民の皆様の多様な意見を反映する仕組みが十分ではないという課題を議員の中で確認いたしました。この課題を解決していくために市民の皆様に議会で発言していただく機会を設けることといたしました。さらに、より身近で開かれた議会を目指し、議会への関心を高めていただけるようにと議場スピーチを行うこととしました。そこで、議会だよりを通じてさまざまなご意見をいただいている議会広報モニターの皆様こそ、当市のまちづくりに関するご提案をいただくのがふさわしいのではないかと考えました。ご提案いただきました内容につきましては議員全員で共有し、駒ヶ根市のまちづくりに活かしてまいります。また、本日は市長、副市長にも傍聴に来ていただいております。ありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします

**中山万宝議員** 続きまして、本日の発表方法等につきまして、広報広聴委員会委員長の中島よりご説明申し上げます。

**中島和彦議員** 皆さんこんにちは。広報広聴委員会の委員長を務めます中島でございます。本日は土曜日のお休み中、モニターさんや議員各位、また、伊藤市長、小平副市長、皆さんにご出席いただきまして本当にありがとうございます。昨年と3年前に、高校生と中学生にも議場スピーチということで発表していただきました。今回、1番議会に精通しておりますモニターさんに市民スピーチということでお願いをいたしました。ご対応していただきまして本当にありがとうございます。令和6年度から17名の議会広報モニターの皆さんに活動をしていただきまして、議会だより等さまざまな意見を頂戴してまいりました。今回2年の任期が満了になるのを機に、4名のモニターさんに駒ヶ根市のまちづくりに関する提案や普段日常においてどう市政を思われているかなどを今回議場で議員に向けてスピーチしていただきます。発表にあたりまして、あまり緊張されていないのかなという感じで、緊張されている方もいらっしゃると思いますけれども、ぜひ議場の雰囲気を感じながら日頃の思いを訴えていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。皆さんのご意見は今後我々で調査・研究を行いまして、必要に応じて市へ要望、提言するようになっております。また、議会モニターの皆さまにもフィードバックをしていきますのでよろしくお願いいたします。発表は先ほど、くじを引いていただきまして、1番に宮入さん、2番に唐澤さん、3番に柳澤さん、4番に井上さんという順番でお願いできたらと思いますのでよろしくお願いいたします。また、発表者毎に発表終了後に議員から感想等出させていただきますので、感じたことなどありましたらお答えいただけたら幸いかなと思いますのでよろしくお願いいたします。そうしましたら議長からお名前をお呼びしますので、そうしたら先ほど事務局から言われたようにお願いができたと思いますのでよろしくお願いいたします。皆さんの発表を心より楽しみにしていますのでよろしくお願いいたします。

**中山万宝議員** それではこれよりスピーチを始めます。以降の進行は氣賀澤議長にお願いいたします。

氣賀澤議長は議長席へ登壇をお願いいたします。

**氣賀澤葉子議長** それではスピーチを始めてまいります。名前を呼ばれた方は演壇に移動し、自己紹介の後、発表をお願いします。発表順位 1 番、宮入さん発表をお願いいたします。

**宮入さん** 私は宮入と申します。住まいは市内の下平区、天竜川の端、全く端ではないですが天竜川の地域に近いところです。本日の私のテーマは、「駒ヶ根市都市計画について」ということです。都市計画は、都市計画税というものと都市計画法というものと 2 つに分かれていると聞いております。この都市計画法に基づいて駒ヶ根市はどのような行政になっているかと申しますと、まず第 1 に大きくわかるのは、天竜川を挟んで竜西地域は都市計画法に入り、竜東の地域は都市計画法の地域に入っていないというふうに私はちょっと確たる資料はないですけどそのように認識しています。1 番のことは、そのことでもあります、それから都市計画法に基づいて、用途地域を指定していったときに、駒ヶ根市の都市計画のものは主に 3 ケ所、市内の 153 バイパスから中道の周辺から文化センターの周辺からのものと福岡地区とそれから菅の台地区 3 ケ所に大きく分かれているわけですが、その他の地域は指定されていないと。要するに私が言いたいのは、指定されたところの人たちは、都市計画税というものを毎年払わなければならない、それによって生きていけないというわけでは私の場合ないですけども都市計画というものがいつ終わるかということもわからないし、またそれに応じて都市計画整備事業や道路、公園、下水道等を進めていったときに、いつ終わるかわからない。特にいつ終わるかわからないのが都市計画道路事業。駒ヶ根市の場合、私の頭の中では都市計画法が整備されたのは昭和 38 年、1964 年の第 1 回東京オリンピックの頃に駒ヶ根市の場合には都市計画法が整備されたと思っています。それから現在まで約 60 年かかり、皆さんご存知のような都市計画道路ができておりまして、あと 3 区画、3 区画主だった都市計画道路はあと 3 区画作る必要があるわけです。その 3 区画は、何年になったらできるかということ、私も一部関連しているところがあり、だから興味を持ったんですが、そうしますと 60 年かかってあれだけの仕事をしたんだからもう 60 年にかかるのかなということ、当然私は生きてない。生きてないから、息子が引き継いでくれれば、息子の代三代は当然かかるだろうと、いやもっと四代になるかもしれない。完成のときには、そうすると永遠といくと。都市計画税の徴収のメリットなところは、1 年でも長く遅延すればするだけ徴収金額が残っていくということですよね。終われば、もう都市計画税を徴収する必要はないんだが、今までも 60 年で終わらなかったから、また来年から徴収できるし、また 30 年後、60 年後に都市計画が終わらなければ、道路ができなければ、一つ目安はね、税金を取れるわけです。もう誰が支払っていくのかと、都市計画税をね、言いますと都市計画をさっき言った 3 つの主な 3 つの区域に網をかけられた人たちはあるわけです。当然、私が先ほど言いました、私が住んでる下平は都市計画法の中には入っていますけれども、都市計画税を徴収するという範囲には入っていない。駒ヶ根市の場合の都市計画の中では入っていないところの方が当然多いわけですけども、完成された道路とかあるいは公園とかいったものは、誰でもが利用できるわけです。利用税がいるとか、そういうことはないわけですけども、そういうことも含めて、金額の多寡はともかくとして、できるだけ公平に負担していった方がいいのではないかなということでありまして、先ほど何度も繰り返しますけれども、向こう 60 年ぐらいかかる恐れがあると、早くて 30 年、10 年でできるかなと頭の中にね、1 ケ所は 10 年でできるかなと、そうすると 10 年後にやっところへ来るのかなと、10 年、20 年、30 年、3 ケ所、もう皆さん方の 30 年後はかなり…そんな話はいいですけど。

**氣賀澤葉子議長** 宮入さん、5 分経っていますのでまとめの方でよろしくお願いいたします。

**宮入さん** そんなわけで、あまり議会の中でそういう話が出なかったり、私の知っている市議会議員にもあまりこういうことは言ったことはなかったですが、このチャンスがありましたので言ってみました。

市長さんは傍聴されているのでぜひ参考にしていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** ありがとうございました。宮入さんの発表に関しまして感想、質問等はございますか。

**今堀議員** 宮入さん大変貴重なご意見ありがとうございました。事前の資料で宮入さんがこの話をされるのを知っておりましたので、市役所で聞いてきたのですが、現在、令和6年度まであったこの都市計画税等の市民懇話会は、現在止まっているようなんですけども、庁内では検討中の新たなプロジェクトの動きもあるようです。今の不公平というお話もありましたけど、例えば、新しい道路ができたり、宅地造成で家が建ったり、商業施設が進出してくると人の流れや動き、その場所の景色が変わって、都市計画のはめ方というかあり方が時間とともに変わっていくわけですね。そういったこともこれからどんどん私達も議論していきたいと思っておりますので、この話は各常任委員会に振り分けられると思いますが、各議員も興味を持ったと思いますので、また一般質問等で質問するタイミングがありましたら、温かく見守っていただければと思います。本日は大変貴重なご意見ありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** 他にはよろしいでしょうか。それでは宮入さん発表ありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** ここで宮入さんは所用のためご退席されます。本当にありがとうございました。

(発表者 宮入さん退室)

**氣賀澤葉子議長** それでは、発表順位2番、唐澤さん発表をお願いいたします。

**唐澤さん** 唐澤と申します。私は高校生、中学生、小学生の子どもを育てる母親です。今私がやっていることは、駒ヶ根市の不登校の家族会てんとうむしの会の代表を仲間と一緒に務めております。てんとうむしの会では、発達障がい家族会の方も開催しておりまして交流会を開いたり、あとは昨年からはじめましたが、学校へ行きづらい子どもと親の居場所「みなみい〜ね」を週2回開催しております。そんな私が今回提案する内容としては、「子どもの声が届くまちづくり 子どもの声を聴くことができる社会へ」ということです。私達が住みやすく魅力的な駒ヶ根市をつくるために、実際に駒ヶ根市で生活している市民の声を聞くことはとても大切なことだと感じます。その市民の声の中に子どもの声は含まれているのでしょうか。子どもも市民の1人です。そしてこの子どもたちが未来を担っていきます。

子どもの権利の中には、自分に関わるあらゆることに関して意見を述べ、重視される権利があります。町の中には子どもが主に利用する場所があります。例えば、公園の遊具は子どもが主になって遊びます。子どもが使うものは子どもの意見を聞くべきだと思います。駒ヶ根市の遊具もどんどん新しくなっている場所が増えてきましたが、子どもの声をどれだけ聞いているのでしょうか。どんな遊具で遊びたいか、どんな公園になると楽しいのか、大人が遊ばせたい公園ではなく、子どもが遊びたいと思えるような公園があるのでしょうか。また、10月に駒ヶ根駅前商業施設が閉店となりました。駅や駅周辺を利用する市民の中には高校生が多くいます。利用頻度の高い高校生の声を聞いてみたらどうでしょうか。あまり駅や駅周辺を利用していない大人が考えていることよりも必要とされていることがたくさん出てくるのではないのでしょうか。子どもに意見を求めても言ってくれないことが多いです。何を考えているのか分からない、何も考えていないのではないかと思うこともあります。しかし、私の子育ての経験や居場所活動をする中で感じたことがあります。子どもが考えていること、思っていること、感じていることはあるけれども、大人がそれをキャッチできていなかったり、キャッチしようとしなかったり、言いづらい雰囲気を作っているということです。私の子どもたちは学校へ行きづらく、行き渋りの状況が長く続きました。「学校へ行きたくない」「え、なんで」「行きたくない」「でも行かなきゃいけないよね」「行

きたくない」の会話を繰り返していました。学校は行きべきものだと思っていた私は、子どもが何を考えているのかわかんないと思って、無理やり学校へ連れて行って行っていました。しかし、子どもたちはずっとずっとずっと学校へ行きたくないと感じていたことを言ってくれていたのです。後に思ったことは、私は自分にとって都合の悪いことや世間の常識から外れていると思った子どもの声を聞かないようにしていたんだと気づきました。大人にとって都合の悪い意見はなかったことにされたり、否定されるような経験をしている子どもたちは、警戒して自分の思いは言わないようになります。言ってもどうせ無駄だと思うからです。子どもが自分の思いを口にするのには安心できる環境と何を言っても否定せずに聞いてくれる人が必要です。自分の意見や感じたことを聞いてもらえた、考えてもらえた、反映してもらえた経験をした子どもは自分自身が尊重されて大切にされたと感じます。自分が大切にされてよかった、嬉しかったと感じた子どもたちは、人を尊重することもできるようになります。社会から大切にされたと感じた子どもたちは、大人になってもこの町に住みたい、駒ヶ根がより良くなるためにはどんなことが必要なんだろうと考え、意見を言える大人になっていくのではないのでしょうか。

11月に伊那市と中川村で西野博之さんの講演会がありました。議員の皆さんもたくさん参加してくださってありがとうございました。西野さんは長年不登校や引きこもり傾向の若者たちの居場所作りに取り組み、川崎市の子どもの権利条例の制定にも関わってこられた方です。西野さんの講演会で子どもの声を聞くには、大人が謙虚に聞く耳を持つていくことが必要だと言われていました。また、聞きっぱなしではなく、聞いた意見がどうなったか、進捗状況をフィードバックすることも必要だ、ということでした。安心して話ができる環境作りとして、お菓子とジュースを用意したり、大人はスーツではなく普段着、大人の人数を少なくするなど紹介してくださいました。将来は、今の大人たちが大人になった今の子どもたちに支えられて生活していくことになります。自分を尊重されなかったと感じている今の子どもたちは、私達大人を支えたいと思うのでしょうか。自分の子どもに対して思いを聞いて尊重したいと思うのでしょうか。子どもの声を聞くことができる社会になれば、全ての人にとって優しい社会になります。大人と子どもがともに尊重しながら意見を出し合い、考えていくことで、住みやすい魅力的な町になっていくのではないのでしょうか。今日は、市長さんも副市長さんも来てくださって、議員の皆さんやモニターの皆さんに私の意見が直接届けられる機会を設けていただきましてとても感謝しております。ご清聴ありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** ありがとうございました。唐澤さんの発表に関しまして感想、質問等はございますか。

**福澤美香議員** 唐澤さん、今日はとても勉強になるお話ありがとうございました。私も子どもを持つ親として、子どもの都合のいいことだけしか聞いていないのではないかと感じて耳が痛いという心が痛いお話だなと思って聞かせていただきました。今、私が思うところでは、子どもが安心して意見を言える場所を駒ヶ根市も作っていければいいなと思ったんですけど、唐澤さんがいつもそういう場をつくるには、どうしたら駒ヶ根市としてできるのかやこういうところが市として足りないんじゃないかと感じていることが日頃ありましたら教えていただけますでしょうか。

**唐澤さん** ありがとうございます。

**氣賀澤葉子議長** 考えられる範囲で結構です。

**唐澤さん** 考えられる範囲で、もっと子どもの目線に立って、話ができるといいのかなというふうに思います。大人だから、子どもに何か教えなきゃいけないとか、しつけなきゃいけないとかこうあるべきだ、あああるべきだみたいなものを押し付けるんじゃなくて、本当に子どもと対等な立場に立って、例えば今お菓子の話もあったんですけども、一緒にお菓子食べながら話をするとか、今私がやっている居場所活動の中では、親子ドッジボールをやってるんですけど、一緒にドッチボールしながら話をする

とか、子どもと同じことをやりながら会話をする子どもの意見とか気持ちなんかも聞きやすいのかなというふうには感じています。

**福澤美香議員** ありがとうございます。私も家に帰ってちゃんと子どもの気持ちを、親の意見ではなく素直に聞きたいな反省したところです。本当にありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** 他にございますか。

**池田幸代議員** 唐澤さんたちの居場所活動、本当に素晴らしいなと思いながら拝見してるんですけども、この1年間で子ども同士の関係、それから「みなみい〜ね」を始められて、子どもたちと大人の関係でいろいろ変わってきた点があるんじゃないかなと思うんですけども、そのあたりをぜひ私達にも教えてください。

**唐澤さん** 1年続けてみて、子どもそれぞれ成長があるんですけども、最初は一方的な子どもが一方的に大人に戦いを挑んだりとかしていたんです。けれども、だんだん月日が流れていくとともに、今はお互いにバトミントンやったりとか、ドッジボールをしたりとか、相互の関係ができるような遊びをするようになってきました。子ども同士でも遊ぶようになってきたので大人たちもただただ見守るだけで子どもたちの世界が広がっているというような成長が見られて、私もやっていて良かったというふうに感じているところです。

**氣賀澤葉子議長** 唐澤さん発表ありがとうございました。唐澤さんの発表を終わりといたしたいと思います。ありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** それでは、発表順位3番、柳澤さん発表をお願いいたします。

**柳澤さん** よろしくお願いいたします。柳澤と申します。先に自己紹介を、私自身は結婚もしていないんですけど私の姪がですね、脳腫瘍を発症していて、現在は高次機能障害で特別支援学校に通っています。今17歳になりました。彼女の成長とともに障がい者が関わる社会課題みたいなものにも直面してきていて、私今年、民間から社会課題を解決するという会社を起こしました。全国的にはベンチャーで社会課題を解決するという動きが動いていまして、現状は総務省の方に勉強に通っていて、福祉装具を開発するという勉強をしながら今に至ります。ここからが本題ですけども、本日は若年の障がい者の居場所について支援をお願いしたいということで2つお話をしたいと思います。

まず最初のお話です。既にもう何人かの市議さんには直接ご相談申し上げていることではあるんですけども、18歳で特別支援学校を卒業すると若年の障がい者は介護保険が始まる40歳までの20年間の間に、今、日中過ごす場所がほとんどないという現実があります。でですね、この話をする大体、福祉課の方たちは、いやいやありますよ、駒ヶ根市ありますとおっしゃるんです。生活介護施設があると。ここひとつ誤解がありまして、まずはっきり申し上げます。駒ヶ根市にはありません。ないんです。市長も確実にこれを受け止めて帰っていただきたい。一方で、伊那市、宮田村、飯島には多機能型生活介護施設というのがあります。これは若年の障がい者も受け入れられる施設になります。この現状でですね、まず駒ヶ根市で働けない若年の障がい者は、市外の施設を利用するか、もしくは、保護者、主に母親の方とおうちの中で見守ってもらいながら生活することになります。つまりお母さんたちは、障がい者がいることによって働く機会をなくしているという現実がございます。

では、なぜ駒ヶ根市では多機能型の生活介護施設は作られないのでしょうか。私はここ強く今日は言いたくてここに上がってまいりました。そして市議さんたちにもお願いがあります。この現状を何とかしたいと何年も何年も訴えてきているんです。そこで、今日皆さんはこれを持ち帰っていただいて、よっしゃ駒ヶ根市にも作ろうぜと、ここからムーブメントを起こしていただきたい、このお願いをしたくてここに登壇した形になります。

では、じゃあなんでやねんっていうところをちょっとお話していきたいと思います。まずですね、この問題をお願いするとですね、先ほど申し上げた、生活介護施設があるよっていうところの押し問答が始まるんですね。ここから駒ヶ根市は一つ一つ現状を調査しますとか、現実こうですとかっていうことで、実際駒ヶ根市には8施設ございます。ただし、細かい条件を見ていくと、先ほど申し上げた若年の障がい者の居場所がないということに直面してまいります。なので、ぜひこれは持ち帰っていただいて、現実を確認していただいて、何とか改善できるような方向性でとにかく動いていっていただきたい。ここを1つお願い申し上げたいことです。

そして後半の話になるんですけれども、実はここ、今まで議論はされてきてないんですけれども今日、私、1ついいアイデアを見つけてきたのでここからはご相談のお話になります。先ほど申し上げた装具の開発の関係で勉強していくと福祉サービスの財源は国が50%、県が25%、市が25%の負担で施設運営をしているという実態があることを私は勉強してまいりました。偶然にも市議会モニターの中でこの数字に行き着くことがわかったんですね。というのは。福祉関連の運営に際して約4億円ぐらいの歳入があることがわかりました。市政モニターしていく中で財源を見ていくと、そこまでそんなに4億とか何億とかっていうお金がついてないのに何でかなと思っていろいろ聞いてみたら、先ほど言った国と県と駒ヶ根市で出し合って大きな財源があるのだと、ただ一方でこれは施設運営のお金です。ですから私は今日ここでこのお金を使って何かしてくださいと申し上げることではないんですね。このように障がい者は財源を持っている、つまり障害手帳と療育手帳を持っている障がい者の方たちは、ある程度財源をついている方たちがいらっしゃるということを把握していただき、そして市として、政策として、いかにこの人たちに向かってどうやって施設を充実させていくかというのを政策的に考えていただけないか、ここを今日のお願いとしたいと思います。駒ヶ根市の課題として、お金がないよとか、人材がないんだよっていうのはすごくよく聞くお話なんです。この中で1つのアイデアとして、国から交付金をもらいながら、どうかうまく施設を運営していく、計画的に都市開発、先ほど都市の開発もありましたし病院の計画なんかもあるかと思います。また、多機能型施設は駒ヶ根市の中にも既存の施設があると思います。こういう施設たちをうまく少し変えていくということで、何か今現状困っている若年の障がい者たちが、居場所があるような環境をもっともっと作っていただくということで、ぜひまた市議さんたちもこの話を聞いてよっしゃやろうぜと。だって、伊那市にもあって、飯島にもあって宮田にもあるんですよ。これって結局、使えない人たちは駒ヶ根市から出ていってしまうお話なんです。でも、せっかくみんなで駒ヶ根市を作っていこうぜっていう、この場を皆さんたちが議論してるんだから、だったらむしろ駒ヶ根市に行きたいねと、周辺からあそこはすごくいい施設があるんだからもっと使いたいね、駒ヶ根市にも周りからもどんどん入っていこうよみたいな形で福祉政策を作っていくことで、すごくいい都市の循環の中で、子どもも障がい者も大人もお年寄りも生活がしやすい市に作っていただきたい、今日はそんな思いでここに登壇させていただいております。

**氣賀澤葉子議長** 5分がだいぶ過ぎておりますので、まとめの方でお願いします。

**柳澤さん** すみません、熱くなってしまうました。以上をもって私の主張をしたいと思います。よろしく願いいたします。

**氣賀澤葉子議長** ありがとうございます。柳澤さんの発表に関しまして感想、質問等ございますか。

**竹村知子議員** 今日は貴重なお話、また提案をいただきまして大変にありがとうございました。数年前に私も同じような課題について団体の方からお話を伺ったことがありました。その当時、議会質問もしたんですが、当時からの課題が今もそのまま同じような状況で続いているっていうことに変わっていないんだなっていうことを改めて感じて、本当に深刻な課題だなっていうことを感じました。現状の市の

取り組みをもう一度担当課に行ってお聞きしましたら、やはり市内の事業所にそういう働きかけもしているけど、そこは進んでいないとか、あと上伊那全体での自立支援協議会というところでも、この生活支援の場がないっていうことは、常に課題として協議をしているという、そういう状態だということをお聞きしました。そこでちょっと1つお聞きしたいのが、個人的なところまでは伺いませんが、差し支えない程度でお聞きしますけど、自宅例えば日中を過ごすために、自宅の訪問型のホームヘルパー的なそういう生活介護の支援を現在使える支援とか仕組みがあるのか。例えば使っていらっしゃる方が多いのか、その辺をお聞きしたいと思います。

**柳澤さん** 障がいて本当にもう皆さん多分ご存知の方たちが多いけれども様々ございます。訪問型のヘルパーさんであるとするならば、おそらく自宅から外出できない方々のお話になるかと思います。私すみません質問からずれてしまう、回答がずれてしまうんですけども、今日ご提案したいのは、自宅から出られる障がいの方々と、その方々を日中預けてお母さんたちがその間にお仕事をするのですとか、みたいな施設がないので、できればそこをお母さんたちも日中動けるようなかたちで施設を作っていっていただきたいということが今日のお願いにはなると思います。

**竹村知子議員** わかりました。若年障がい者の支援が本当に制度の狭間に置かれているっていう、そういうご指摘はそうだと思って、私達議会としてもまた行政もやっぱりこのことは真剣に向き合わなければいけない課題かなって感じました。もう1つは、福祉をね、地域財政に取り組む新しい発想っていうそういうことをお聞きしたんですけど、福祉を費用でなく、歳入を生み出す地域財源と、そういう地域投資として位置づけるっていう、そういう発想もあるんだなと思って改めて今後参考に研究をしていきたいなって思いました。誰1人取り残さない社会と言いますけど、駒ヶ根市もそういう社会になるように共に一緒に取り組んでいければなと思いました。今日は本当にありがとうございました。

**柳澤さん** この件についてはパブリックコメントで実は40件以上のコメントを集めています。それで福祉計画の中にも多機能型、若年障がい者取れてしまったんですけど生活介護施設をつくるという計画の中に1文を入れていただいたということが実は私達が一生懸命活動してきた一つの成果としてあります。ここで言いたいのは、市民の声が、実はもう結構集まってるんだよっていうことも含めて皆さんの中でご認識していただいて。なんでこんな話をしているかというと同じ人に何人も何人も何人も竹村さんにもお話します、万宝さんにもお話をしました。何人も何人も同じ方に同じことを繰り返して何も進まないっていう歯がゆさを今抱えているんですね。そうではなくて、ちょっとでも形になっていく、市の中で議論されていくっていうところを切にお願いしたいと思います。本日はお時間いただきありがとうございました。

**氣賀澤葉子議長** 柳澤さん発表ありがとうございました。暫時休憩といたします。

休憩 午後1時12分

再開 午後1時14分

**氣賀澤葉子議長** 再開いたします。次に井上さんお願いいたします。

**井上さん** 井上です。よろしくお願いします。5分なので早速本題に入りたいと思います。市長さんも来ていらっしゃるということなので、まず私が聞きたいのは、駒ヶ根市に夢はありますかということでございます。例えば、市長の夢はありますかでしょうか、副市長も夢はありますかでしょうか。行政職員にも夢はありますかでしょうか。その夢は、果たして市民の夢と一致しているのでしょうか。私は全ての政



策はその夢が土台にあってこそだと思っています。まちづくりは夢あってこそ。私は駒ヶ根市のまちづくりをするために駒ヶ根市が夢を持つことを提案いたします。その夢というのは一見不可能な大業がいいと思います。夢を持つ者だけが計画を立てて道を切り開くことができると私は思っています。さらにその夢は市長の夢、行政職員の夢、市民の1人1人の夢、それぞれの利害を一致させないといけないと思っています。個人の野望と地域全体の大業が一致したときに、町は動き出します。今私達に必要なのは、この町に生きる人たち、関わる人たち全員の幸福を実現するという大きな大義が一致する目標を掲げ、行政職員、市民がそれを自分事として動き出せる状態を作ることです。夢すなわち大業として、私が1つ提案したいのは、伊那谷統一、いかがでしょうか。遅かれ早かれ駒ヶ根市、吸収合併されるか吸収合併するか、どちらかだとしたら、もうこの際、伊那市も飯田市も含めて全部を吸収合併して、伊那谷の真ん中駒ヶ根市が中心だということであってちょっと盛り上げていくっていうのもありかと思っています。

ただ、もっと今の時代に合ったものもあるかと思っています、例えばその象徴となるのは食料自給率の向上だと思っています。食べ物を自分たちで作れる地域は強い。そして、世界情勢が揺れても災害が起きても自分たちの生活を守ることができます。同じアルプスに囲まれたスイスでは、食料インフレに強い政策を打ち出しています。どの地域で作られたものかひと目でわかるように、柄分け、色分けされた地場産マークが発達していて、さらに市民は自然と地元のものを買い、農家は誇りを持って生産し、その循環が地域を支えています。それ、駒ヶ根市でもできるはずですよ。そして各地域、各地区ですね、駒ヶ根市の場合、各地区地域ごとの地場産ラベルを作って、県外出荷するときも駒ヶ根のラベルを貼ることを義務化して、さらに学校給食や市内のお店にも広げて、そして農家をサポートし新規就農を後押しする、そう、食料自給率日本一は駒ヶ根市だ、みたいな夢が掲げられたら、市政も行政も方向がそろってわくわくする未来、動き始めるはずだと私は思っています。

そしてもう1つ、駒ヶ根の未来に欠かせないのが、移動できる町であることだと私は思います。高齢者だけでなく、車を持たない若者、あと学生、子育て世代、観光客、移動できないっていう不安は生活を狭くして心も暗くしちゃいます。移動を制限されるということはそれすなわち刑務所に押し込まれると同じだと私は思っていて、そんな悲しいねつまらないね町なんてないと思います。そこで提案したいのが、地域循環バスのあり方をもう一度考え直してみたいはいかがでしょうか。集落支援員をハブにした小さな移動ネットワークを整えることで、小さな予算でも実現可能な交通網が作れると私は思っています。集落支援員は本来は地域の課題に寄り添う存在です。集落支援員を16地区各区ごとに配置し、実権を任せることで、その目と手となり交通にも生かされます。必要なときに動く小さなバス、地区ごとに乗りやすい動線、行政が把握できなかった移動ニーズ、これらが一気に可視化されます。これは、単なる交通政策ではありません。これは、つながりを取り戻すための仕組み作りの再構築です。駒ヶ根がどんな町として未来残っていくのか、3世代先のことをね、この地域の彼らにどんなバトンを渡したいのか。その大義を目に見えた形にするための一歩として、目標、夢を掲げたらいいかと私は思っています。

そして、まちづくりを動かすのが、次の3つが揃ったときです。1つは市長のビジョン、2つ目が行政職員が手と足を動かして支える実行力、そして3つ目、市民1人1人の野望。行政職員と市民が自分事として参加したときに、不可能が不可能でなくなると私は思います。それ、駒ヶ根でできますっていう、一歩下がった目線ではなくて、それ、駒ヶ根でやりますってやりましょう。リーダー、行政とは常に民とか地域に夢と希望をもたらし存在であるべきだと私は考えます。駒ヶ根に関わるものならば誰しもがね、胸いっぱいになって全てをかけてしまうような希望を私達に見せてください。そして、この町

に生けるね全員の幸福を実現するという大義のもと、もちろんね伊那谷統一でもいいし、食料自給率日本一、そして誰しもが移動できる町として、私はね、個人的にですけど、高市首相もね、ここの駒ヶ根市視察しに行かなければ、みんな視察しに来てってね、言われるぐらいな町になったらいいなと思っております。以上です。ありがとうございます。

**氣賀澤葉子議長** ありがとうございます。井上さんの発表に関しまして感想、質問等ございますか。

**小原茂幸議員** 井上さん、本当に熱い夢を語っていただきましてありがとうございます。いろいろな言葉の一言一言に示唆するものがあるのかなと、夢を追いかけてく、そしてその夢が、今最後の方に市長のビジョン、行政職員の実行力、そして市民の野望っていう部分で、それぞれの夢がベクトル、方向性の一つにして大きな目標のもとに、それぞれの立場で進んでいこうじゃないかと2つ提案がございました。自給率、この地域の自給率を日本一に上げようと、今現在、北海道辺りはね、自給率が高いんですけども長野県はあるいは伊那谷だけは自給率100%、120%だと。いろんなところで困ってるんならその20%を分けるよってというような形で集合させるってこと、これは素晴らしい提案だと思います。そして、誰でも移動ができる町、集落支援員ということで今お話がありましたけれども、16区に16人の集落支援員を配置して、想像するのにハイエースくらいのね、普通免許で運転できるワゴン車を整備して、誰でも動ける、子ども、高校生、お年寄り、これもまた新しい発想かなと思います。ということで、それ、駒ヶ根でできます、駒ヶ根でもできます、いや、それ、駒ヶ根でやりますという表現、これはまたこれからいろいろなところで上げていけるかと思います。今日はいろいろなご提案ありがとうございました。今後とも、また、まちおこし、ご意見よろしく願いいたします。

**氣賀澤葉子議長** ありがとうございます。これにて井上さんの発表を終わりといたします。4人の方の発表が終了いたしました。以上で私の進行も終了といたします。

**中山万宝議員** 4名の皆さん本当にありがとうございました。皆さんの発表は終了いたしました。今一度発表された方にですね、大きな拍手をお願いしたいと思います。（拍手）

それでは最後になりますが、お礼の言葉を議長より申し上げます。

**氣賀澤葉子議長** 皆さん本日は本当にありがとうございました。傍聴の方、そして、発表された方、日頃思ってたことを本当に真摯に丁寧に発表していただきました。大体皆様、5分はオーバーされていたんですけども、それだけ思いが強いかなというふうに思いました。先ほどからもありますが、皆様のことはちゃんと受け止め、そして議会としても検討してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。そして市長、副市長、傍聴に来ていただきありがとうございました。第1回目ということでございますので、またこれから皆様のご意見などをお聞きしながら、いい方向に進めるように頑張りたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

**中山万宝議員** 以上をもちまして議会広報モニター議場スピーチを終了とさせていただきます。ご起立をお願いします（全員起立）。礼（一同礼）。ご着席ください（全員着席）。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。